

二〇一五年一二月一三日

流行り風邪一人うつらぬ子の元氣  
寒卵割れば吉兆黄味二つ  
波高く鳶の高舞ふ冬の海  
煤逃げで鉢合わせする親子かな  
あるほどの話出尽くし置炬燵

二〇一五年一二月一二日

ボランティア揃ひのベスト落葉掃き  
靴下の脱ぎ散らかつてゐる炬燵

歳時記の並ぶ炬燵が吾の書斎  
木枯しに紙垂狂ほしき夜更けかな  
常連の卒寿も歌ふ第九かな  
省くこと多し独りの年用意  
一〇二五年一二月一日

風倒木深き落葉を褥とす  
廣池に縦横無尽鴨の水脈  
朴落葉ばさつと大き音立てて  
湯たんぽを入れて一と日の仕事終ゆ  
風切羽ゆつたりたたみ白鳥来

灌ぎ物干す背に嬉し冬日燦  
枯芝に弾む雀や玉日和  
時雨過ぎ去りて日の射す石畳

博 澄 きよえ 充 子 ほたる うつぎ むいべ エビ あひる よし女 鶴 千 わたる 康 わたる 勉 聖 子 わたる 康 サン ム オベ

錦繡の一山背なふ摩崖仏  
神殿の光背めきし黄葉かな  
薄明の蘆原に靄たちにけり  
年の瀬を打ちやりコンサートの一と日  
日に縋れ風にほどけて枯尾花

冬日向句会場とすベンチかな  
包丁の刃に身を締むるなまこかな  
一〇二五年一二月八日

寒 夕 燃 立 観 音 の 面 染 む る  
一〇一五年一二月七日

毎日句会みのる選・二〇一五年一二月一五日

む や 澄 ふ う ぼ よ む 澄 う ほ 康 愛  
よ さ さ つ ん し べ つ た て 子 正